



二十五人いるメンバーのうちの一部分の方々

今回は中央公民館で活動している「民謡なんこく」におじゃましました。

# われら仲間 おどろい

## 楽しく踊って 健康づくり

「民謡なんこく」の代表者、別荘雅子さんはサークルについて次のように紹介してくれました。

「民謡はいつ、どこでも、だれもがみんなで楽しく踊れることが特色です。これからの高齢化社会を元気で長生きするために健康が一番、というのには誰もが願っていることです。

全国にある昔から知っている民謡、新しくできた民謡などを音楽に合わせて楽しく踊りながら、健康づくりや仲間づくりで親しみませんか。運動神経、反射神経、音感神経などが自然に培われまして、南国おどり、よさこい踊り、鳴子踊り、しばてん踊りなど高知県内の踊りでもたくさんあります。また、東は室戸から、西は宿毛までの民謡愛好者が一堂に集まって、年一回十月に高知市で「ふるさとの民謡まつり」が開催されます。民謡なんこくも参加しますので、ぜひ一度ご覧ください。

皆さん、今日からでも始めてみませんか。いつからでもおいてください。野島昌子先生の親切、丁寧な指導のもと、みんなで楽しく踊っています。練習日は第二・第四火曜日の午後一時三十分から三時三十分



このコーナーでは、同じ趣味を持った方たちの楽しい活動風景を紹介しています。

「私たちのサークルを取材してほしい」と思われる皆さん、ぜひ一度ご連絡ください。

■応募方法 ナール代表者の氏名、住所、電話番号、活動場所、それに活動内容を簡潔に明記

■あて先 〒783 南国市大堀甲二二〇一 南国市企画課広報係 係

までです。

連絡先は別荘雅子（☎6630141）、または市立中央公民館（☎3498）まで

# 市民 サロン

このページは市民の皆さんが作るページです。短歌、俳句、川柳などの文芸作品やどんなことでも結構ですので皆さんのご意見をお気軽にお寄せください。

締め切りは毎月10日です。

あて先は南国市企画課市民サロン係（〒783 南国市大堀甲2301）です。

## 朝晩冷えるよ 葛目義人（岡豊町）



しかし、せつかくやつて来てもあと少しで浜辺というところで、離岸堤がずっしりと立っているし、砂浜にはジュ

今年も六月九日と七月四日に、アカウミガメが産卵のためこの浜改田の浜辺にやってきました。主人は、毎朝王時ごろ犬をつれて浜辺を散歩していますが、ウミガメの産卵を見つければ、何か自分の手からウミガメのふ化に取り組んでいます。

静岡県で発信機をつけて放浪されたアカウミガメ五匹のうち三匹は房総半島、二匹は北太平洋に向かい遊泳距離は千二百、以上にもなると先ごろの高知新聞の記事が載っていました。はるか海の彼方

海亀のふ化に一生涯取り組む主人の姿を温かく見守る妻、増田久乃さん（浜改田）。

久乃さんからいただいた投稿を、今月と来月の二回に分けて紹介します。

1. スの空き缶、空きビン、その他いろいろなゴミが波に打ち寄せられ散らわたり、亀が砂浜の上の方へはい上るのをはばんでいるようです。川や海を汚さないようにといくら呼び掛けても、いっこうに効き目がない現状です。私たちが子供のころは、きれいな白砂の浜が長く、海水浴に行ったら、アツチ子と言いながら砂の上を走って波に入った記憶があります。今は、防波堤から波打ち際までが短く、何だか砂浜がなくなったようです。昔のような、円を描いた海岸線と白い波、きれいな砂浜、そして緑の松林、そんな風景はもう取り戻せないのでしょうか。

（続く）

## これはなんでしょう

謎のひまわりの謎

答えについての思い出などもお持ちしています。

■しめきり 10月9日

■あて先 〒783 南国市大堀甲二二〇一 南国市企画課 親子クイズ係

■賞品 正解者の中から抽選で5人に図書券を進呈

◎前回の親子クイズの答えは、ひまわりでした。

男児回当選者発表（敬称略）

北沢美子（応募総数30通）  
（緑ヶ丘）

藤田寿美（様厚）  
秋山久美子（岡豊町）  
高木康博（前浜）  
大石忠志（左石山）

◆私にとってひまわりは、ソファ・ローレンとマルチエロ・マストロヤンニの映画の中に広がったひまわり畑の花です。いつの時代でも、戦争はつらい悲しいものです。今思い出しても胸がせつなくなる映画でした。

◆小学校二年生のとき、夏休みの自由研究に「ひまわり」を選びました。花を咲かせ種がとれるまでを観察しました。秋の発表会のとき、もぞろ紙十枚ほどにわたって、たくさんの方の前で報告したのを思い出します。

◆子供のころ飼っていたハムスターが死んで、大好きだったひまわりの種といっしょに家の畑に埋めました。夏になり、そんなことも忘れていたころ、畑にはたくさんひまわりの花が咲いていました。

◆小さかったのにいろいろな世話をしてくんくん大きくなっていました（ほくより高くなった）。今はかれていますけど、すごくきれいです。

◆最近、道路ぞいに姫ひまわりをよく見かけますね。が、やっぱり、あの大きなひまわりを見ると「夏」を感じると思いませんか？

南国俳句	南国俳句	南国歌壇
五午の宿題の腕が如れ	潮風に濡れしオクラ痛わしい	立ちたもう荒沙門天に霧こめて
秋のみに夏至の風あり宝福寺	嘆き込んでながれ星また流れ星	両手合せば流れるるきり
遠吠いて浄土ヶ池と標しあり	優曇華や結子の紫裏にゆらゆらと	城跡に流びし古人の怨嘆とも
水音の床下にある涼し	子等も出て灼浜掃除茶焼く	樟の大樹に風たち騒ぐ
職退きし暮しに慣れてさし城居	洋方兼煮じつづけて秋深も	ま白なるやわき太ももまぶしくも
		鳴子踊りの行きつ戻りつ
		ペランダの白き結晶に響きぬ
		潮風すこも甘風の余波
		壁みわたる今宵十五夜空高く
		心若やぎ芒活けたり
		碧き空北の山より遠かなる
		飛行機雲よゆるり流れて
田村 中沢 節	十市 八松 久幸	植野 中上 日出子
金地 西本 かつ子	福船 大島 新草	立田 北村 幸江
里改田 山岡 みよ	前浜 竹村 福女	西島 岡林 きよ
前浜 竹村 佐知	前浜 高木 喜美	浜改田 梅澤 富士子
前浜 岩城 鹿水	大堀 大崎 雅子	岡豊町 武樋 信子
大堀 高石 杜枝		前浜 沢田 千恵子

思い出がっばん